

＜環境配慮型高機能・高コストパフォーマンス製品開発・生産拠点の構築事業＞ 課税の特例、利子補給金活用(平成23～29年度実施)

グリーンアジア国際戦略総合特区

特区による大きな成果

【評価目標】 当地域が貢献する環境を軸とした産業の年間売上高

【数値目標】 年間売上高 約0.2兆円(H22.12)→約5.2兆(H32.12)

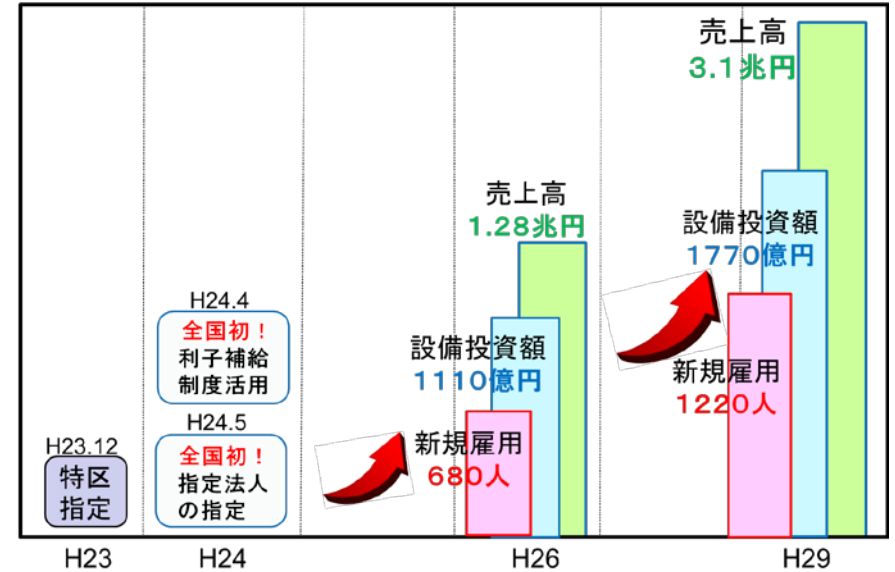
H29目標値 2.67兆円

→ **H29実績値 3.1兆円：進捗度 116%**

◆総合特区の支援措置の積極活用により、産業拠点化が進展！

事業イメージ

○省エネ・省資源に貢献する環境対応車、パワー半導体、産業用ロボット、LED等グリーンデバイス、風力発電機器など、**環境配慮型高機能・高コストパフォーマンス製品をアジアから世界へ展開**する。



事業効果

大手から中小まで幅広い企業が設備投資を実施

- 設備投資額 1,770億円
※特区制度活用企業62社のうち中小企業28社(45%)
- 新規直接雇用 1,220人

県内各地で環境関連産業の集積、拠点化が進展

- 自動車用部品サプライヤーが県内に次々進出
〔林テンプ、ニッパツ九州、ROKI福岡、名古屋パイプほか〕
- 最新型のロボット生産工場を海外ではなく県内に整備
〔安川電機〕
- 大型・洋上風力発電用増速機の開発・製造設備を導入
〔石橋製作所〕

開発から生産まで一貫した拠点化が進展

- 次世代パワー半導体の開発拠点「パワーデバイスイノベーションセンター」を整備 〔三菱電機〕
- エンジン・トランスミッション等の開発拠点「ダイハツグループ九州開発センター」を整備 〔ダイハツ工業〕
- 技術部門の総合的な拠点「テクニカルセンター」を整備 〔トヨタ自動車九州〕

グリーンイノベーション研究シーズの産業化が加速

- 産業用特殊空調設備の開発拠点「イノベーションセンター」を整備 〔西部技研〕
- 産総研技術移転ベンチャーがLED用ナノ蛍光体の新たな製造拠点を整備 〔NSマテリアルズ〕
- 省電力で広域をカバーできるIoTデバイスの開発・製造拠点を整備 〔Braveridge〕